

# 英 知 通 信



発行  
英 知 大 学  
兵 庫 県 尼 崎 市 若 王 寺  
2-18-1 (〒661)  
TEL (06) 491 - 5083  
編 集  
英 知 大 学 広 報 室

1981. 11. 20

UNIVERSITAS SAPIENTIAE

No.32

## 第七回

### 英知大学後援会総会開催される

去る五月二十三日(土)午後二時から本学本館三〇一教室において第七回後援会総会が開催された。出席者は六十八名であった。大多数は大阪兵庫・京都・奈良・和歌山などの近府県の方々であったが、中には北九州・福井・岡山等の遠隔地から来学された熱心なご父兄もおられた。

総会は阪本副会長の開会の辞で始まり、まず会長挨拶と続いて学長講話があった。

講話のあと、会則第十二条により会長が議長となり議事が進められた。

昭和五十五年度決算報告 議長の名により、五十五年度の書記石田知一氏が別掲の決算書により、各項目の説明をし、大学への助成金はグラ

ウンド改修費その他に当てられた旨を説明した。

監査報告 関、松田両監査より帳簿書類等すべて完備され、会計処理が適正に行われている旨報告があり、決算報告並びに監査報告は満場一致で可決された。

昭和五十六年度予算案審議 議長の名名によって石田氏が別掲予算案に基つき説明し、異議なく可決された。

役員改選 会則六条・七条・八条の説明後役員選出の方法がはかられたところ、会員の中からこの春卒業しなかった学生の父兄は再任されたいとの発言があり、これが支持されて会長副会長は再任、監査は次の候補者という案が示された。

### アメリカ・ローラス大学と姉妹校提携

—— 来春から研修生を交換 ——

アメリカ・アイオワ州のローラス大学とは以前から交流があったが、去る九月はじめ傘木学長と松本学生部長が渡米し、正式に姉妹校の提携をした。

ローラス大学は、ミシシッピ州のほとりである人口六万人くらい、緑の多い情緒豊かな文教都市デュービーク市の小高い丘の上に建てられており、学生数は一、七〇〇人、教授陣約一〇〇人で、創立後一四〇年を経た由緒あるカトリック系の大学である。専門課程には、英語、西語、仏語をはじめ、経済、歴史、宗教、音楽、コンピューター科学、ジャーナ

リズム、数学、物理などに分化された三十三のコースがあり、キャンパス内には五つの学生寮が完備されているなど勉学のための環境は抜群で今後英知大学学生の短期留学、長期留学、また教授の交換についても全面的な協力が約束された。来年の二月に実施を予定されている海外語学研修旅行は、これまではヨーロッパのみであったが、次回はヨーロッパ大学へも行く計画を進めており、これは将来アメリカ長期留学を志す学生にとっては今後の大きな希望となろう。

- 会 長 東 功(再任)
- 副会長 北原啓三郎(再任)
- 副会長 阪本美佐子(再任)
- 監 査 橋本 元貞(新任)
- 監 査 谷本 博(新任)

この案に対して盛大な拍手が起り満場一致で可決決定された。なお常任理事および理事は会則通り、後日会長より委嘱し、発表の予定ということになった。

東会長および阪本副会長の再任の挨拶のあと、感謝状並びに記念品の贈呈が行われた。これは今回から退任の役員全員に対し、感謝状並びに記念品の贈呈を行いたいとの要望があったためで、この提案が本総会で満場一致可決されて行われたものである。阪本登前年度監査、関、松田両監査、桑野・浄閑・網谷常任理事山西理事の七名の方々に感謝状並びに記念品が贈呈され、出席者一同盛大な拍手をもって感謝の意を表明した。続いて、後援会発足当時より七年間後援会書記として後援会の会務処理について献身的に尽された前総務課長石田知一氏に対し、後援会並びに名誉役員・現役員一同より記念品料が贈呈された。

以上で議事を終了し、阪本副会長の閉会のことばをもって総会は閉会された。

総会終了後、図書館一階レセプションルームでお茶の会が催された。これはすでに恒例の会となっており出席のご父兄もお持ちかねの様子が出席された。今年は十三人の先生方が九つのテーブルに一、二名の先生が着き、食事を共にしながら、先生を中心に学生や大学についていろいろと歓談され、和やかなうちに真剣さがたたき、一同時のたつのも忘れたような雰囲気であった。最後に

### 第七回親睦パーティ開催

本学開学記念日の去る十一月一日の日曜日は絶好の秋日和に恵まれ、恒例の第七回親睦パーティが開催された。このパーティは後援会が先生方を招待して昼食をとるにしながら、わが子の教育について膝を交え、打ちとけて話しあい、大学の教育方針を理解し、ひいては相互の親睦を深めるために催されているもので、本年度で七回目を迎え、年毎に盛大になり、当初の目的を達成しつつあるのは、まことに喜ばしいことである。

午前中は大阪外国語大学教授氏原寛先生の「人間成長と新しい家庭のあり方」——子供の教育と親子・夫婦の問題——と題する講演があり、聴集者一同に深い感銘を与えた。続いて正午から大食堂で親睦パーティが行なわれた。まず阪本副会長が開会のことばを述べ、東会長の挨拶に続いて、傘木学長の挨拶があった。次いで東会長の発声で全員が乾杯し会食・懇談になった。最後に北原副会長が閉会のことばを述べた。

本年の参加者は父兄一七五名、教員三十名で、これは例年になく多数であり、中には北九州・広島・福井・岐阜・愛知・鳥取等の遠方からの参加者もあり、夫婦同伴の出席も三十一組にのぼった。各学科別の十四グループに分れ、グループ毎にその学科・学年の先生方を囲んで着席し、和やかな雰囲気の中に、わが子の教育について熱心な話し合いがなされた。最後に東会長の発声で全員起立、英知大学と後援会の前途を祝福し、その発展を祈って、声高らかに万才を三唱し、閉会した。この後多くの父兄が、催し物や模擬店など、学生たちと共に大学祭の一と時を楽しんでおられた。(文責・後援会書記)

(二頁第一段に続く)

東会長の発声で英知大学および後援会の前途を祝福し、声高らかに万才が三唱され閉会した。

会長挨拶の要旨

英知大学は開学以来十八年間、建学の理想とするキリスト教精神に基づき、人間的豊か多多数の優れた教授陣による、少人数制教育で徹底した外国語、外国文化の研究等国際人育成のための教育を実施され、着実にその成果を挙げてこられた。後援会としては感謝にたえず、また大いに誇りとするものである。後援会の発足は昭和四十九年度丁度七年を了えたところであるが、当後援会の特色は大学に対する単なる財政的援助だけでなく、子弟の教育と奨励に關して大学と協力するという趣旨の「父母後援会」としての性格を有しているものである。会員相互の親睦としては、本総会に学長先生の講演をお願いしたり、秋には大学主催で後援会員のために講演会を開催して頂き、その後で先生方のご出席を仰いで家庭的な雰囲気の中での懇親パーティーを催している。この有意義な講演会と和やかなパーティーにはぜひご出席下さるようお願いしたい。子弟の卒業のあとは父母は自動的に後援会と無縁になつていくが、卒業後も子弟と母校とは繋がっているように、父母の方々にも後援会と結び付いて頂きたいことである。そのために役員経験の方々に後援会のため助言、激励等精神的支援をお願いする事として昭和五十五年より名誉役員になつて頂いているが、将来はオール前会員にも呼掛けて名誉会員をお願いする事にならう。その際にご賛同ご参加をお願いしたい。後援会は今後も微力ながら

大学の充実、発展のためお役に立ちたいと考えているが、皆様方のご支援とご協力をお願いするものである。

学長講話の要旨

最近の学生はのびのびとして明るく活気があり、勉強も真面目でやる気がある反面、頼りない、しんのない感じもする。また大学のレジャーランド化は大学のあせりと反対に最近特に著しい感じがする。時代の流れを追って見ると、一九六〇年代は大学紛争の時代、七〇年代は無気力無関心のしだらけ時代、八〇年代は積極的で明るくなった反面、いわゆる甘え学生が増加しつつある。それは親と社会の過保護の結果だ。甘え学生は自我の確立ができていない、従って人間に一番大切な自主性・自律性が育っていないから、どうしてよいかわからずいらいらしている。最近多くの大学生の尊敬する人物は親であるそうだが、これも視野の狭さ、人間交流体験の乏しさから親を頼りに思う甘えの表れであるとしたら問題だ。このような自我の確立を求めて焦っている青少年に対して、どうしたらよいのか。決め手は仲々なかろうが、要は人間とは何かを親や教師が考え直すことだ。教育とは人間をよくすることだが、そのためにはモデルが必要だ。人間とはこうあるべきだということについて親や教師、社会一般が明確な自覚を持っていることが大切だ。誠実、責任、思いやりなど、人間性は昔から変わっていない。もう一度人間性を考え直すことが大切だ。本学の建学の精神は人間人格の尊厳というキリスト教精神である。この崇高な人間観に基づいて私たちが一層努力していき

後援会々長挨拶



東 功後援会会長はグスタフ・フオス神父様の著書「日本の父へ」を引用して要旨次のような挨拶をされた。

グスタフ・フオス神父様はドイツ人で、鎌倉市にある栄光学園高校長を三十年以上勤められて現在は同校の理事長である。この本のすぐれている点は説教や訓示ではなく、著者の信念が自身の体験やご両親との交流を通じて語られており、価値観の変動期における日本の父親への警告の書物であることだ。最近の若者には、しつけが行き届いていない。親は子供のしつけを学校任せにしないで家庭で実行すべきである。小遣いを減らす、嫌いな仕事をやらせるといふ罰を与えるなど、子供の個性を見きわめた上で適切な方法で子供に反省を促すことは親の務めである。子供は神から預ったものであり、親には神の代理者としてわが子をしつかりした人間に教育していく権利と義務がある。子供の心の教育は親の最大の役目である。家庭でのしつけや暖かい心の交わりは、子供の魂を

(前頁最下段より続く)

昭和55年度 英知大学後援会決算書

Table with 3 columns: 項目 (Item), 金額 (Amount), 備考 (Remarks). It details the income of the alumni association for the fiscal year 1955, including items like membership fees, donations, and bank interest.

Table with 3 columns: 項目 (Item), 金額 (Amount), 備考 (Remarks). It details the expenses of the alumni association for the fiscal year 1955, including items like support funds, administrative costs, and postage.

3. 差引残高無

昭和56年度 英知大学後援会予算書

Table with 3 columns: 項目 (Item), 金額 (Amount), 備考 (Remarks). It details the budgeted income of the alumni association for the fiscal year 1956.

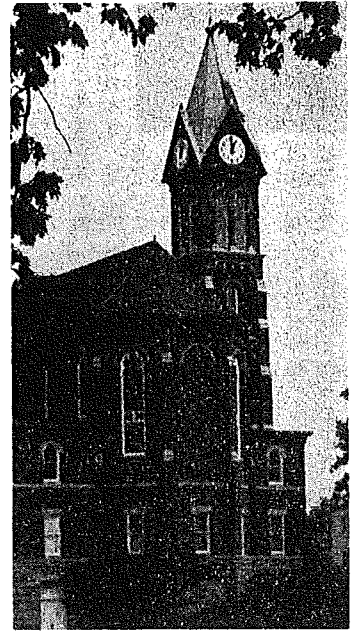
Table with 3 columns: 項目 (Item), 金額 (Amount), 備考 (Remarks). It details the budgeted expenses of the alumni association for the fiscal year 1956.

3. 差引残高無

育てるものである。米国の詩人R・W・エマーソンは「人間の成長はその母親の心によって決まる」と言っており、昔から「父親は十人の教師に等しい」と云われているように学校教育には限界があり、家庭教育がいかに尊いかということを語っている。また本会の教育は宗教心が土台になっていなければならない。子供が悪いことをした時、神の存在を知らせて人生のルールを守る躰けを与えてやる必要である。神の変らぬ掟こそが人間の正しい規範となるのである。(文責・広報室)

# 姉妹校“Loras College”紹介

学生部長 松 本 信 愛



経緯

今回姉妹校となったローラス・カレッジは前学長の岸先生が数年前に訪問されたいくつかのアメリカの大学の中的一个である。この度、実質的に交流できる大学をまず一つ選んで内容をつけて行くことになり、それらいくつかの大学の中より、英知大学に最も相応しいと思われる三つの大学からパンフレットを取り寄せその中から一つを選んで文通を繰り返して、正式に、そして実質的な姉妹校となったのがローラス・カレッジである。

所在

ローラス・カレッジは、米国アイオワ州のデュビューク(Dubuque)という市にある。デュビューク市はシカゴから車で約四時間、すぐ傍をミシシッピー河が流れている人口約六万五千の市で、三つのカレッジをはじめ、多くの学校と教会のある情緒豊かな市である。ローラス・カレッジは、そのデュビューク市の小高い丘の上に建てられており、ゆったりとしたスペースの学内はとても美しい。

ローラス・カレッジは英知大学と学風

同じカトリックの教区立の大学で、学生数も千七百名程であり、英知の姉妹校としてはうってつけの大学である。

但し、百四十年の歴史を誇る同大は、さすがに内容が濃く、専門課程には、英語、西語、仏語をはじめ経済、歴史、宗教、音楽、ジャーナリズム、あるいは、コンピュータ科学、数学、物理等、三十三のコースがあり、学内の五つの寮と共に、勉強する為の環境はとても素晴らしい。

姉妹校として

春の語学研修旅行に際しても、大卒の方でホームステイ用の家庭を探して下さり、授業の方も大学の先生方が担当して下さい。更に研修中はローラスの学生と同じ扱いをして、あらゆる施設の使用を許可して下さい。

また長期の「留学」に関しても、ローラス側からは、英知大学の学生であるというだけで無条件で受け入れて下さることである。但しこの点に関しては、それだけ英知大学の方に責任が任されているという点なので、英知大学の方で、何らかの形をもって選考する予定である。

その他 七年前からその職にあるローラス

の現学長は、百四十年の歴史の中で「最初の神父でない学長」だそうである。敬虔なカトリック信者の学長は、白い頸帯をはやしたやさしい方である。

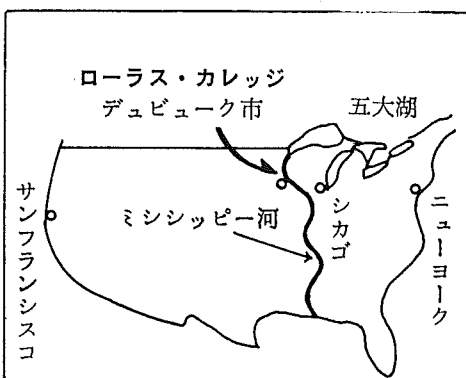
教務部長兼任の副学長は Beta 神父で、英知の学生の受入れ関係一切の面倒を見て下さる。ローラスへ行く学生は、この神父の名前さえ覚えておけば心配はない。

英知では

この度、留学、研修旅行等、外国関係のあらゆる事務を扱う窓口として「国際交流委員会」が設置された。今後、ローラスへの留学や研修旅行の問題もそこで扱われる。窓口としては「学生課」が当たっている。

○英知大学「国際交流委員会」が発足

ローラスカレッジとの姉妹校提携の成立を機に、学生の海外語学研修旅行なども含めて国際関係問題を扱う機関として十月一日付で「国際交流委員会」(「International Affairs Committee」)が発足した。松本信愛学生部長を委員長に井勢健三助教授、沼野元義助手が委員として担当する。



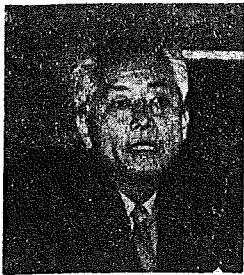
## 第十八回

### 英知大学祭開催さる

第十八回英知大学祭は十一月一日から三日間、Freedom、(自由)を統一テーマにして開催された。好天に恵まれた初日、まず恒例の田吾作大行進の一行は、九時半にブラズバンドを先頭にして阪急梅田へと出発した。午後になって、学生会館横のグラウンドに設置された野外ステージではアマチュア・フォーク・コンテストが催された。この野外ステージは、工事現場で使われる足場用の鉄パイプを組み立てた高さ一・二メートル、奥行七メートル、長さ十三メートルもある大がかりなステージで、中央にはテレビで流行の「Dr. スランプ」の口から出演者が描かれ、スランプの口から出演者が登場してくるという愉快な趣向であった。二時から学生会館の二階ではESSの文化発表があり、イギリスの女流作家エミリー・ブロンテの「嵐が丘」が英語で披露された。この劇は、観衆に理解してもらい易いようにと、シナリオに手が加えられ、練習にはたっぷり一カ月間を要し、十二人の部員による熱演は満席の感涙を誘った。英知祭二日目は、十時から西語研究会によって、西語劇でカルデロン作「人の世は夢」が発表された。つづいて学園祭に花をそえる恒例の「ミス英知コンテスト」は、今年から優勝者には金色の王冠が送られた。選ばれたミス英知は来年のコンテストに登場して王冠を返還し、新しいミス英知に王座を譲る。二時からH30一教室で催された「本ものは誰だ」には、本学の五名の先生方も参加して、推理ゲーム

を共に楽しんだ。つづいて五時からファイリングカップル五VS五が行われた。呼びものの空手アトラクションとキャンプファイヤーは、悪天候のため中止となった。英知祭三日目は午後からビッグイベントが開演された。出演のフォークグループはまず、スイートエリア、キャパレ、泉ようじバンドと演奏が続き、三時すぎになってから本学O・Gでフォーク歌手の村上留利子さんが登場した。会場は拍手で音楽にのりパンチのきいたリズムに二百人の聴衆は陶酔した。教室棟でも一階から三階にかけて装飾をこらした模擬店がたち、文化発表や映画会なども催された。こうして父兄や卒業生の多数の参加を得ていっそう盛りあがった第十八回英知祭は、夕刻に学生会館で催されたダンスパーティーを最後に盛況のうちに、その三日間の幕を閉じた。





近頃の家  
庭では父  
親が子供

開学記念日講演要旨  
人間成長と新しい  
家庭のあり方

氏原 寛 教授  
(大阪外国語大学)

近頃父親不在が問題になっているが父親の役割とは何か。人間は自分を他人と比較することで自分が何者かを知ることができるが、これは父親のあるいは男性的態度だ。これに對して母親のあり方は人はどうであれ自分は自分という態度を持つことで、これは四、五才までに身につけなければならぬ。そのあとで自分を他人と比較して自分の劣ったところや限界を知り、自分なりにいかに頑張っていくかという生き方が身についた時、心理学的に大人になったと云える。この自分の限界や劣等性を引き受けるということが今の若者には欠けている。子供がまともな大人に育つためには父母の厳しさややさしさが必要だが、近頃子供を本気で怒れる父親が少なくなった。子供が人間としてはいけないことをした場合、父親として叱るというよりも、大げさにいえば神の代りに怒るのだ。ところがこの烈火の如く怒るといふことがはしない、子供を傷つけるという考えが強くなり過ぎてしまった。そのため子供の心に神を恐れるか絶対にしてはいけないことがあるという考えが育たない。そのまま大人になって、とんで

もないことをやらかすといふことが少くない。近頃の家庭では父親が子供を叱った時、母親がまちがった引きとめ方をするので父親は怒れば怒る程漫画になる。そして母親の手に負えなくなった時父親に叱ってほしいと思っても漫画になっているから親とやさしい母親のチームワークによって父親の厳しさと母親のやさしさが共に生きるのだ。両親は日頃からそれぞれ役割分担を納得して置くことが大切だ。東京のある有名私立高校の生徒の家庭でその子供が親を殴ったり蹴ったりする。思いあまた父親が子供を殺した。そして父親の裁判の途中で母親が自殺するという痛ましい事件があったが、この時期には子供や青年は多かれ少かれ荒れるものだ。鼻が低い、家が貧しい等の本来恥すべきでないことを恥かしく思っ傷つき始め、劣等性に直面する。自分は限界や劣等性を持った人間であるということを引き受けた上で、自分なりにどう生きていくかということが思春期から青年期にかけての課題である。少々の欲求不満にへこたれないたくましい子供を育てることが大人の責任だ。ところが近頃は子供に欲求不満を経験させまいとする気持ちが強すぎ、子供を鍛えることが手薄だ。だから子供は忍耐に欠ける。子供の気持ちを分けてやることは大切だが悪いことをしたら責任をとらせることだ。東大紛争で硝子や本やら無茶苦茶にした学生が捕まっって、こんなことならやるんじやなかったと言っ泣いたというのには有名な話だ。世の中の矛盾に腹がたつて無茶苦茶にしてやりたいという気持ちになることと実際にそれをするのは大違いで、したことに対して責任をとることが抜けている。大学生から会社員も含めて今の若者はこのブレキが弱い。辛いことは慣れていないので、辛いことは

周囲が悪いからだと言わりを責める。ノーベル賞受賞者の動物学者ローレンスによれば群を作る動物は群を乱す者を放り出してしまふ本能を持っている。人間も群を作る動物だが最近の人間はおかしいのではない。群全体に災をもたらす人間が出るに悪い人間の責任を追求するよりも悪い人間をいじめる人間が申し訳ないといふ傾向が強く、人間本来の群を作る本能が狂ってしまったとローレンスは言う。思春期から青年期にかけて問題を起した場合は悪いとよく言われるが、本人が一番悪いのだ。この時期の青年は自分の中の劣等性を引き受けるという辛い作業をやっている最中だから多少は荒れる。だがたいてい親の方が恐れ入って、子供に對してよき親でおれなくなるケースが多い。子供は青年期に達して職業を選択しなければならぬが、その時いやでも自分の限界を知らなければならぬ。最近の青年は、なりたいたいと思っけるものになれる可能性があると思っけるが、だめだと分つたらすぐ止めてしまふ者が多い。自分の限界を見極めた上でいかに努力するかが大切なのだが、限界が見えろと崩れてしまふ。この原因の一つは外国から入ってきた民主主義であらう。民主主義は男性的な考え方で、日本は女性的で母親的な社会だ。民主主義は個人主義に立脚し、個人主義、一人一人が皆違うという認識から出発している。身長や年齢の違いなどそれぞれ違う人間がその違いを越えて皆平等だということだ。日本人は平等ということのみにとびついて、一人一人に差があることを見落している。今の若者は自分より秀れた才能を持った者に敬意を払うことを知らない。先生は学生に

学問を教える師だから敬意を払うべきだ。基本的人権では両方とも人間として平等で尊厳性を持つが、師弟関係だから先生の方が偉いのだ。このけじめが今の若者にはなく、老人も若者も先生も学生も皆平等だということでは先生と学生が友人のような関係になってしまっている。個人の限界や劣等性を大人は子供に知らせなければならぬ。そして他人と比べて自己の限界を知り傷つき、傷口をなめつつ次の目標に向って努力するたくましさや身につけさせなければならぬ。このように今の若者は人と比較した上で自分の劣等性や限界を引き受けることに慣れていないが、これは我々大人の怠慢だったのではないだろうか。(文責・広報室)

昭和五十七年度 入学試験日程  
推薦入試 十月十三日～十一月六日  
出願期間 十月十三日、三日、四日  
試験日 十二月二日、三日、四日  
試験科目 現代国語、英語、面接  
合格発表 十二月十日書面通知のみ  
試験入試  
出願期間 一月十八日～二月三日  
試験日 二月十日  
試験科目 国語(現代国語、古典一乙八漢文を含まない)、外国語(英語B)、論文(一、二〇〇字以内)  
合格発表 二月十八日、書面通知および学内発表  
要項請求は兵庫県尼崎市若王寺二一八八一英知大学教務課入試係まで(二共八五〇〇)

研究室だより  
大西忠雄教授(フランス文学科)  
去る五月、六巻からなる「現代百科事典」(ぎょうせい出版社発行)の中でモーパッサンに関する解説文を執筆した。  
井上博嗣教授(英文学科)  
去る六月二十日松陰女子大学で開催された日本アメリカ文学会関西支部会に於いて「The Sun also Rises」における人間像をめぐって「疎外的状況とその克服を観点として」と題する研究発表を行った  
井勢健三助教授(英文学科)  
去る五月三十一日に日本大学で開催されたアイルランド文学会年次大会に於いて「リアム・オフラハティ」とアイルランド語法について」と題する研究発表を行った

新人人事  
九月三十日付 退職  
非常勤講師(生理衛生学) 大岩建成  
十月一日付 就任  
非常勤講師(生理衛生学) 岡 剛史  
同 藤井純子